

村上記念病院医療事故の公表について（包括的公表）

朝日大学歯学部附属村上記念病院の理念の一つに「安全で質の高い医療の提供」があります。当院では理念に基づき医療事故防止のため様々な取り組みを行っていますが、この様々な取り組みに加えて院内で発生した医療事故を自発的に公表することが「社会」から求められています。そこで当院では、院内・院外への情報提供や医療の透明性・信頼性を資する場として定めた医療事故公表基準に基づき平成 27 年度に発生した当院の医療事故をここに公表します。

平成 28 年 7 月 1 日
朝日大学歯学部附属村上記念病院
病院長 大橋 宏重

期 間 : 平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

【医療過誤による患者影響レベル 3b 以上の公表件数と概要】

公表件数 : 5 件

概 要		
分類とレベル	事 例	再発防止策
検査 3b	大腸癌化学療法中において、血液検査の血清 Mg および Ca の結果が低値であるにもかかわらずパニツムマブ（ベクティビックス点滴静注）の投与中止が行われなかった。投与 6 日後に嘔吐等の症状にて救急受診後、低 Mg 血症による症状と判明し緊急入院にて治療し点滴などの薬物治療を必要とした。	化学療法の時には受診時に血液データを主治医が毎回確認している。このデータチェックを強化するために、外科の外来診察室に化学療法有害事象基準を掲示し、この内容と照らし合わせて主治医がチェックし、化学療法実施あるいは中止の指示を看護師とダブルチェックで確認したうえで看護師が薬局に連絡する。薬局でも独自に化学療法有害事象基準と患者の血液データとを照合し化学療法有害事象基準に該当する場合は電話で外科医に疑義照会するルールにする。この両者のチェックをもって化学療法を実施する。
手術 3b	大腸内視鏡検査にてポリープ切除直後にバリウムで透視検査を続行し、大腸穿孔を誘発した結果バリウムが腹腔内に漏出した。	多発ポリープに対する内視鏡的手術としては、原則 1 回 5 個程度までの切除にとどめるように考慮し、切除後に造影検査が必要な場合はガストログラフィンを用いることを徹底する。
食事 5	局所麻酔下での慢性硬膜下血腫術後当日における 2 回	80 歳以上の高齢者には、局所麻酔下の手術においても術後当日は絶食とし、食事形態

	目の食事の際に生じた窒息死	も誤嚥を起こしにくいものを選択することとする。
手術 3b	手術直後の患者移動時にドレーンが抜け、再留置を行った。	ドレーンなど管類が留置されている際は、引っかかかっていないか、つっぱっていないか、ドレーン刺入部からドレーンバッグまで全体の所在を確認する。2人以上で声をかけ合いながら、安全かつ確実にやっていく。
放射線治療 3b	リニアックを使用した頭部定位放射線治療において寝台を回転させた際に外付け多分割絞り装置と患者が接触した。その後の検査で肋骨骨折が判明。骨の転位はなく鎮痛剤・湿布薬等により保存的加療を施行した。	従来施行している治療前の機器と患者間に十分な距離が担保されているかの事前検証に加え、治療施行時に寝台を動かす際はモニターを介しての遠隔操作は禁止し、リニアック室内で患者と機器双方を直視下に操作する。また操作前には患者への声掛けを行う。